

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

広島県 福山市立内海中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年6月22日（金）

■ク ラ ス：1年（11名）、2年（8名）、3年（17名）

■オリンピアン：佐伯 美香 先生(バレーボール・ビーチバレーボール)【出場オリンピック/アトランタ大会、シドニー大会、北京大会】



■授業のながれ：運動の時間（3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・校長先生より佐伯先生を紹介した後、東京2020大会が開催されることを知っているかを問い掛け、オリンピックを身近に感じてほしいと伝える。続いて、オリンピックバリューについて簡単に説明し、運動の時間で意識してほしいこととして、全力で取り組むこと、協力すること、助け合うことの3つを約束事とした。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班対抗でバレーボールのパス回しを実施。班で円を作り、連続でパスを行う、制限時間は2分間で合計回数が多いチームの勝利、パスが続かなかった場合は、1から数え直すことをルールとして3回行った。佐伯先生より円の中でパスを回し合うように心掛けること、自分が取るのか、他の人に任せるのか、声を出し合うこと、どこに行っても繋げられるように準備しておくことをアドバイスし、記録が伸びた班に全員で拍手を送った。

4. まとめ



・記録が伸びた班もあれば、伸びなかった班もあった。目標を達成するためには、アイデアを出し合い、班の中で共有し、ルールを守りながら一生懸命取り組むことが大切で、それが今回の結果として表れた。初めての挑戦であったが皆上手にできていた。できる人、苦手な人、色々なレベルの中で実施したと思うが、そういう中で協力して取り組むことが必要であった。続いて、最初に交わした3つの約束事を守っていたかを確認し、それを意識して取り込んだ結果、楽しくできたのではないかと伝える。次の座学の時間では、オリンピックバリューについて、オリンピックに出場するまでの過程と経験してきたことを織り交ぜながら話をしていく、また皆のオリンピックに対するイメージも確認したいので、それを考えながら座学の授業の準備をしてほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・現役当時の映像を紹介し、座学の授業ではバレーボールを通して経験したことを紹介しながらオリンピックバリューについて説明すると話し、オリンピックに対するイメージを問いつける。佐伯先生は小学5年生からバレーボールを始めたが最初からオリンピックを目指していたわけではなく、目の前のことを一生懸命取り組む中でオリンピックというものが見えてきた。自分の中にもオリンピックに対する具体的なイメージはなかったと伝える。

3. グループワーク



発問：将来の夢や目標を実現するためにどんなことができるか、オリンピックバリューに当てはめながら考えてみよう。
 発表：目標を高く設定し挑戦する、失敗を恐れずいろいろなことに挑戦する(エクセレンス)、大会で良い結果を残すためにチームワークを深める、友達と教え合って理解を深める(フレンドシップ)、いろいろな人と関わり合う、応援してくれている家族や友達に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活にも深く関わっている。皆もこれからやってみたいことをどんどん言葉にしてほしい。将来の夢や目標を口に出すことで周りの人が協力や応援をしてくれる。それが自分の励みになり頑張ることができる。将来の夢や目標を実現する過程で大変だと感じることもあると思う。そういう時こそ自分を信じることや周りに感謝することを思い出し、それぞれの夢や目標に向かってほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

1年、2年、3年



■ 記念品贈呈

1年、2年、3年



■ 修了書贈呈

